



和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 184号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報 2017 年 12 月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

2018 年 1 月、2 月の主な予定表

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森	樹林公園
1 月	20 日 (土) モニ 1000 全国交流会・シンポジウム及びポスター発表	27 日の予定 新倉ふれあいの森保全	17 日大坂ふれあいの森 (9:00～) 富沢湧水保全 (10:30～) 25 日 (予定) モニ 1000 調査	12 月 26 日 公園再生 検討会
2 月		17 日 定期保全	21 日大坂ふれあいの森	検討会

当会が行っている 3 ヶ所でのこれまでの保全活動特集

★ 樹林公園の森づくり

1. どんぐりの森は、2000 年からどんぐりを鉢植えにして育て、2 年後に樹林公園に定植に移植し、周囲の環境と共生をしながら森づくりをしてきましたが、コナラ、クヌギにミズキ、モミジも生育し立派な森に成長し、生物多様性が保たれた環境となっています。
2. ヒロハアマナの保護区では、機械を使わない保全をしています。この保護区内で松の実生がたくさん見つかったのをきっかけに、実生の苗を鉢植えにして育て、松林を再生しようと考えました。鉢植えから約 1 年半後に松幼樹を樹林公園の一角に定植し育成を始めました。小さな苗は枝を大きく張り松の若木に成長中です。この度公園内の看板を新しいものに取り換え、樹林公園内で生まれた松の育成を解り易くしました。
3. ヒロハアマナの保護区内では、草や樹木が勢い良く成長してきます。ヒロハアマナは早春に目を出し花を咲かせ 5 月には地上から消えて休眠します。夏に日陰を作る落葉樹の森が必要で、現在若い樹木を選び環境が整うように保全しています。一か所に集中してきているので、一部だけ球根を掘りどんぐりの森内に移植しました。集中しすぎるのは良くないようです。



★ 井戸調査を行いました

2014 年に和光市湧水環調査を行いました、その中の 5 か所の井戸調査は現在も継続して毎年行っています。12 月 15 日に、井戸の水深、水温、気温、pH、EC の値を測定しデータを作成しました。5 件のお宅は、たいへん広いお屋敷に住んでおられ、お宅に向うたびに和光に残る大切なものを感じています。井戸調査は今後も継続していく予定です。モニ 1000 白子湧水群調査も継続しています。2018 年 1 月 20 日には、その結果をポスター展示する予定です。

★ 新倉ふれあいの森保全活動

新倉ふれあいの森は、毎月第3土曜日 午前中 9:00~12:00 保全活動を定期的に行っています。ここは、和光市の北東にあり朝霞市との境界で、越戸川をはさんで対岸には朝霞の森があり、荒川に面した斜面林です。コナラやクヌギ、シラカシなどどんぐりもたくさんあります。イヌシデの大木が斜面にありましたが、樹木の腐食が進み昨年伐採されました。斜面上部奥にモウソウチク林があります。竹林の整備は重要な保全活動の一つです。特に11月、12月は竹林整備が中心です。竹の枯れも多く見られ、切り出しました。竹と竹の間隔が狭いところでは、間引きし間隔を広げるようにしています。今回切り出した竹の中に、15



メートル以上ある竹が見つかりました。竹は、芽が出てから3~5カ月ぐらいで成長しきります。これを、保存して、多くの方に観察できるようにしておくことにしました。



★ 大坂ふれあいの森の活動「落葉置き場の腐葉土の取り出しと修復および腐葉土活用」

大坂ふれあいの森の保全は、白子大坂ふれあいの森の会に湧き水の会が協力して、定期保全活動を第3水曜日午前中に行っています。このふれあいの森は白子宿通りから続く大坂通りの中間にあり、春植物のカタクリやイチリンソウが自生する湧水のある斜面林です。斜面の貴重植物の保護、湧水道の整備、畑跡地の植生管理、道路の落葉掃きと清掃など様々な保全活動をしています。活動後には、皆さん集まってお茶を飲みながら歓談し、情報交換を楽しんでいます。

落ち葉置き場を設置してありますが、2年たつと腐葉土となり落ち葉置き場は一杯になります。良質の腐葉土を取り出して、新しい落ち葉を入れる場所として再度使えるように修復する必要があります。できた腐葉土は良質で、今回は斜面の補強に活用しました。腐葉土中には、カブトムシやコガネムシの幼虫も見られます。第4小学校では飼育ケースで幼虫を飼育することとなりました。森の生き物や、リサイクルを考える環境学習の場としても活用していこうと思います。

